

資料11-2 第3回みえ環境大賞 受賞者一覧

●環境活動部門（4団体）

（50音順）

名称	所在地	主な活動	活動の詳細
梅村学園 三重中学校・高等学校	松阪市	松名瀬海岸をフィールドとした総合学習（環境）及びクラブ活動（生物相調査）等	授業の一環として、中学1年生全員（140名程度）を対象に、事前・事後学習に加え終日、地元の松名瀬干潟において、三重大学・三重県水産資源室・松阪漁協・ボランティアを講師として環境学習を行い、その後、海岸の清掃活動を行っている。 また、クラブ活動として、科学部の生徒が、三重大学の研究者の指導のもと、生物相調査を毎月行い、その結果を校外で発表するとともに、その知識と経験を活用して、自らプログラムを作成し、子どもや大人を相手に干潟の観察会の講師を務めている。
名張市立薦原小学校	名張市	天然記念物ギフチョウの観察・調査等	ユネスコスクールの加盟校であり、ESDの実践として天然記念物であるギフチョウの観察を実施している。ギフチョウを通して絶滅危惧種の生態や里山の働きを知るなど、1年間を通して調査を行い、調べてわかったことから、自分たちにできることを考え、行動に移している。また、全校児童、保護者、住民に環境を守ってほしいと発信をしている。
特定非営利活動法人 多度自然育成の会	桑名市	環境調査、保全作業、環境教育等	多度の自然を次世代に残すため、環境調査と保全作業、環境教育を中心とした活動に取り組んでおり、「イヌナシ自生地の保全」において国の天然記念物指定にまでつなげた。また、ESDの考え方に沿って、人権・国際という観点を意識した環境教育にも取り組んでいる。
よみがえれ大又川連絡協議会	熊野市	大又川の水質改善活動等	大又川の水質を改善するため、流域の家庭からの合成洗剤追放運動に取り組むと共に、水生生物及び水質調査を実施している。その他、河畔域でのケヤキやヤマザクラなどの広葉樹の植栽や大又川を守るための標語の募集、アマゴの放流などの活動を行っている。

※ESD: Education for Sustainable Development（持続可能な開発のための教育）の略称

●環境経営部門（2団体）

（50音順）

名称	所在地	主な取組	活動内容
株式会社東芝 三重工場	朝日町	業界トップの主要環境性能（自社基準）を持つ製品開発、製造工程における省エネ化、地域に根ざした環境CSR活動等	<p>業界トップの主要環境性能（東芝基準）を持つ「エクセレントECP」の普及拡大を目指した製品（車載モーター／インバータ、高効率モーター、トッランナー変圧器等）を開発し、生産している。これら、2013年度生産した高効率・省エネ製品について従来品との消費電力差から算出した結果、電気使用量は14155万kWh、CO2換算で186千t-CO2の削減につながった。</p> <p>環境負荷低減としての2013年度重点項目として省エネ型設備導入により、消費電力の削減を推進した。主な省エネ型設備として太陽光発電設備（20kW）、高効率空調機器（52台）、屋内照明LED（2,868灯）、トッランナー変圧器（6台）等を導入し、約125万kWh／年を削減できた。</p> <p>また、省エネ意識の向上を目的として緑のカーテンコンテストやエコ&セーフティドライブ講習会を、リサイクル及びボランティア意識高揚のため、まごころ募金・リサイクル運動やエコキャップ収集活動を実施している。さらに地域に根ざした環境CSR活動として朝日町と町内の企業が連携し、エコ通勤や地域清掃等を継続して実施している。</p>
日本ケミカル工業株式会社	四日市市	発砲スチロールを使用した環境配慮型製品の開発、製造工程における省エネ化、資源化リサイクルの取組等	<p>環境経営を目指して1年間の社内研修を経て、平成19年8月にISO14001認証を取得し、ボイラー燃料の削減、使用電力量の削減及び不適合品・回収発砲スチロール製品の溶融による資源化リサイクルに取り組んできた。</p> <p>また、温暖化対策として、平成21年1月にボイラー燃料をA重油から都市ガスに切替え、ボイラー排出二酸化炭素ガスを約28%削減。この平成21年度が基準年として5年間の温暖化対策計画を進めた結果、計画最終年度の全二酸化炭素ガス排出量は、基準年度比16%減の成果を得た。</p> <p>さらに、平成26年度から生産量、受注品目に関係なく省エネにつながる温排水の利用を徹底。以前より成形機から出る温排水をボイラー給水として利用していたが、自社製発砲スチロールを活用して、温排水回収ポンプからボイラー給水タンクまでの配管と同タンクの保温対策を行い、50℃から70℃に排水貯水温度を上げた。その結果、燃料ガスnm3（ノルマルリユーベ）あたりの蒸発倍数は15.5から16.0に向上し、燃料ガスの約3%削減という省エネ化を実現した。</p>